

農村の学び方

農村社会・社会学特殊研究 第1話

秋津元輝(農学研究科)

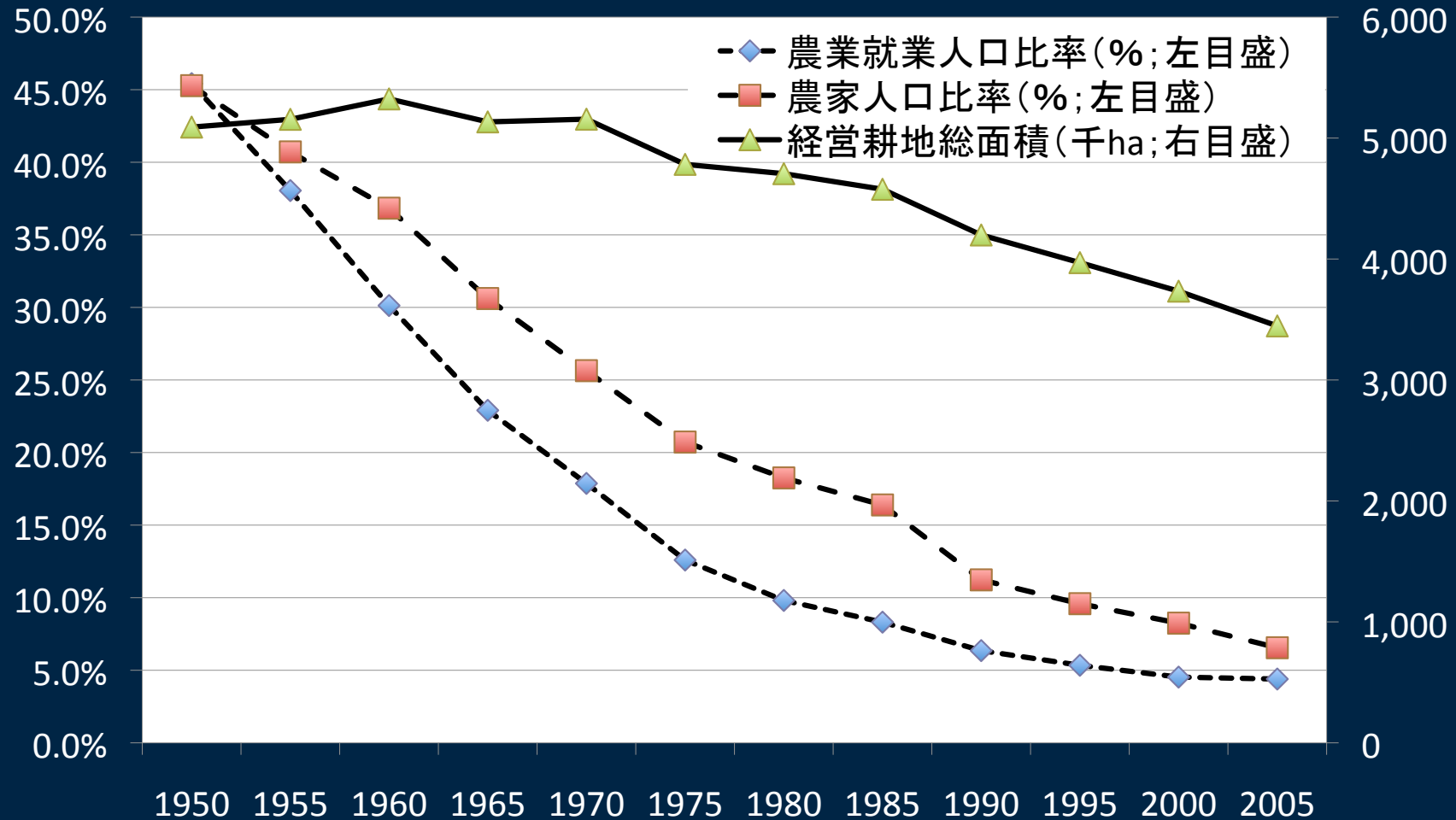
農村への想像力

- 農村に関わる問題とは？
 - さまざまな問題
 - たとえば、「限界集落」、「耕作放棄」
 - 海外＝途上国問題と国内問題
- 想像力の貧困と限界
 - 情報の偏り
- 農業世界の縮小



稲架かけによる天日乾燥(右京区京北町)

減少する農業の主要指標



ただし、農家人口と経営耕地総面積について、1990年以降は販売農家のみの集計。農林業センサス、国勢調査結果より作成。

まずは国内から

- 国内の農業と農村を説明できること
 - 国際化のための基本条件
- 農村問題と環境問題とのつながり
 - 耕作放棄地の急増
 - 山の労働力不足
- 農村問題と食料問題とのつながり
 - 生産力の喪失
 - 安全性問題

農村社会政策

- 農村社会の存続問題
- 地域の維持管理問題
 - 農地と水、山林の荒廃
- 「社会」政策として
 - 社会的紐帯を豊かにするための政策
 - 農村内部でのつながり
 - 農村と外部とのつながり

農村とグローバル化

- Globalization
 - liberalization
 - 先進国における貿易自由化
 - 巨大企業による農業支配
 - 家族農業経営の衰退
 - 農業経営の自律性の喪失＝農民社会の消滅
 - standardization
 - 人・情報の流動化・・・労働力移動
 - 機関・制度について
 - (e.g.農業における国際標準
 - Codex Alimentarius 1962/3～)

農村と環境志向

- ロハス
 - LOHAS
- 地産地消
 - 流通エネルギーの縮減
 - 直売所への訪問はそれに反する？
- 食への関心の高まり
 - 安全性
 - 教育



和歌山「めっけもん
広場」年商23億円

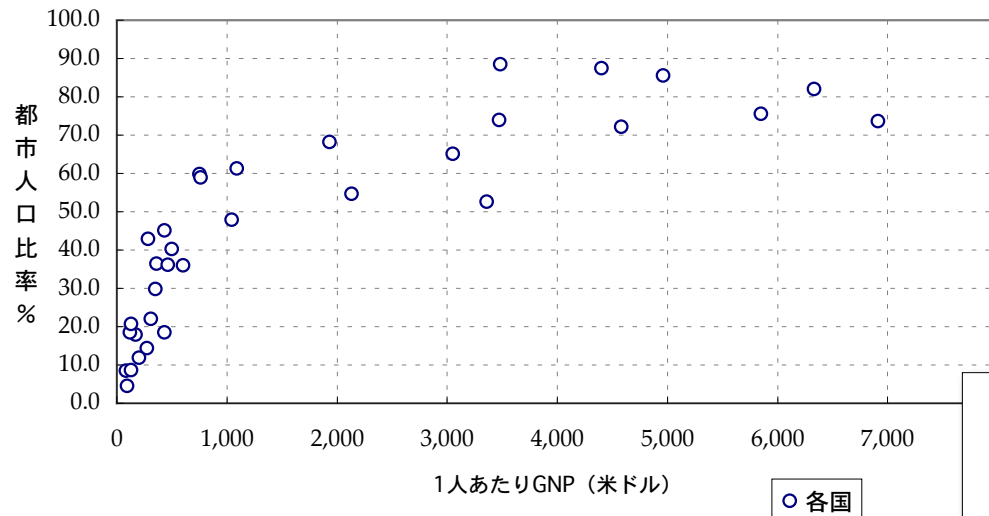


状況の共通性

- 先進諸国
 - 先進諸国における地域づくり
 - 農業生産と農村生活との切り離し
 - 場所を売る・・・「消費される農村」
- 途上国
 - 国際的労働力移動
 - 貧困からのとりあえずの脱出→都市へ・難民化
 - 最貧困国の場合

都市化とGNP・GNI

図2 1人あたりGNPと都市人口比率（1973年）



一人あたりGNIと都市人口比率

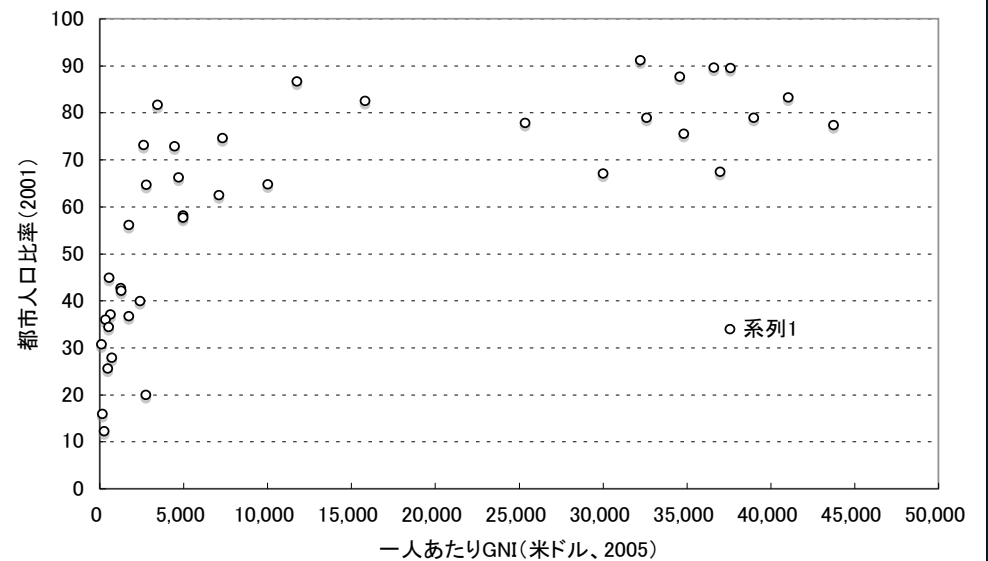
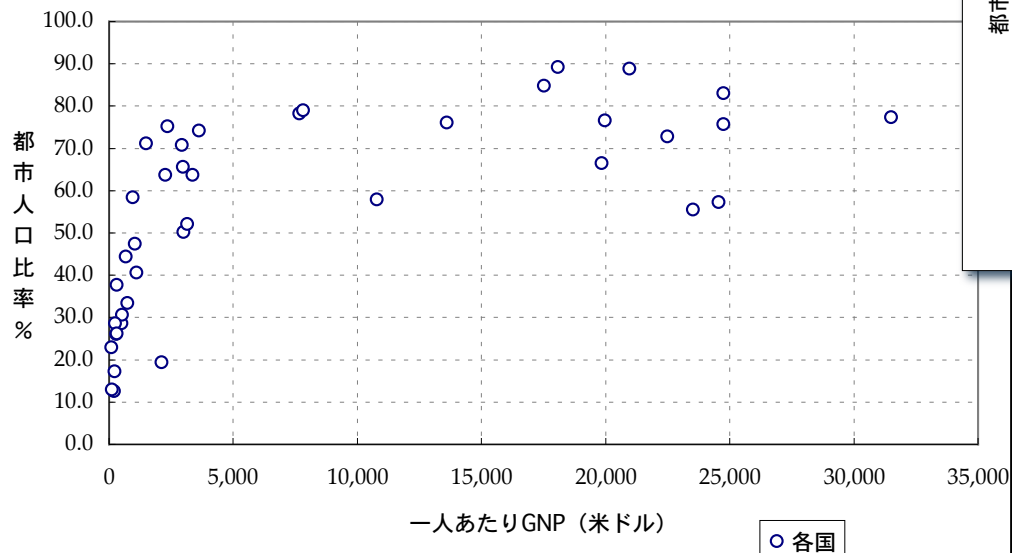


図1 一人あたりGNPと都市人口比率（1993年）



講義のスケジュール

- 農的回帰の社会学
 - 農村の社会的構築
 - Iターン農業・Iターン移住
 - 先進国の食と農村
 - マイナーからメジャーへ；農村ジェンダー
- 農村社会研究の基礎理論
 - 家の理論
 - むらの理論
 - むらと領域
- 農村社会学の拡張領域
 - 鳥獣害と農山村問題
 - 食と農の社会学

参考文献

- 日本農村研究の現在を知る
 - 日本村落研究学会編『むらの社会を研究する』農山漁村文化協会、2007
 - 日本村落研究学会編『むらの資源を研究する』農山漁村文化協会、2007
 - 秋津他『農村ジェンダー—女性と地域への新しいまなざし』昭和堂、2007
- (先進国)世界の農村研究の現在を知る
 - Paul J. Cloke, Patrick H. Mooney, Terry Marsden eds., 2006, *Handbook of Rural Studies*, Sage Publications, 368 pages